34 2024. 5

薬友会報

千葉大学薬友会









薬友会長・研究院長ご挨拶・・・2医学薬学府・学府長ご挨拶・・・・3退任のご挨拶・・・・・・3薬学部この一年・・・・・4会員便り・・・・・7研究室便り・・・・・10クラス通信・・・・13支部便り・・・・15サークル紹介・・・・15学部だより・・・・16	第109回 薬剤師国家試験合格状況16 2023年度 卒業生・修了生の進路16 2024年度 薬学部入学者の状況17 2024年度 大学院医学薬学府入学者の状況 (4月入学者)17 2023年の受賞記録17 薬友会より19 第32回千葉大学大学院薬学研究院 薬友会生涯教育セミナー 宮木高明記念講演会開催のお知らせ20
教員の人事異動······16	卒後教育研究講座開催のお知らせ20



本年は正月より、能登半島地震が発生をいたしました。被災をされた薬友会会員の皆様には謹んでお見舞いを申し上げます。改めまして、このたび薬友会長を務めさせていただくことになりました薬学研究院長・薬学部長の小椋康光と申します。私は、故鈴木和夫先生が主宰された衛生化学研究室で博士の学位を取得した後、他機関で博士研究員を経て1997年1月に衛生化学研究室の助手として採用され、2009年3月まで衛生化学研究室や生体分析化学研究室で准教授として勤務いたしました。2009年4月から2015年2月まで昭和薬科大学にて教授

を務めた後、2015年3月に千葉大学大学院薬学研究院に再度、勤務をさせていただくことになり、現在に至っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2024年は、薬学研究院・薬学部を取り巻く環境にも少なからずの変化が起こっております。新しい薬学教育モデル・コア・カリキュラムに沿った6年制教育が本年度から始まりました。これまでのモデル・コア・カリキュラムに比べて、各大学の裁量が広がっており、どのような特色ある教育を行うのかが、さらに問われることとなります。一方、4年制の薬学教育についても2017年に日本学術会議薬学委員会から提言された「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」が、6年制課程と統合した薬学教育分野全体の参照基準として見直されるとのことです。また、本年度から順天堂大学薬学部と国際医療福祉大学成田薬学部が開校し、千葉県内には現在8校の薬学部が存在することになります。人口比では、東京都の10校を凌ぐ規模となります。

1949年に新制千葉大学薬学部が発足した時の初代薬学部長の宮木高明先生は、同年に発行された千葉医科大学新聞に「薬学部の実態と将来への構想」と題した文章の中で、「(前略)必ずや千葉大学薬学部は特色ある教育及び研究能力を以て我が国の薬学教育における強力な存在となることを約束したいと思ふ。」と仰せです。宮木高明先生のお約束した事を今後も果たし続けるため、どのような環境の変化があったとしても、本学薬学研究院・薬学部の構成員一同が協力し、頑張っていく所存であります。薬友会員の皆様におかれましても、これまで以上のご支援とご協力を賜れますようお願い申し上げます。



2024年度医学薬学府学府長を務めさせていただくことになりました。

昨年度は修士課程総合薬品科学専攻51名、後期3年博士課程先端創薬科学専攻17名、博士4年先端医学薬学専攻3名が課程修了致しました。中でも博士4年先端医学薬学専攻で2名が優れた研究業績を上げたと認められ、1年早期修了いたしました。4月より医学薬学府薬学領域では修士課程総合薬品科学専攻49名、後期3年博士課程:先端創薬科学専攻10名(薬学領域)、4年博士課程:先端医学薬学専攻薬学領域8名)の新入生を迎え、基礎生命科

学ならびに医薬品創製に貢献できる国際性豊かな独創性ある研究者および高度の専門技術と研究能力を備えた先進的医療人の次世代リーダーの育成にあたります。

また、文部科学省支援事業である卓越大学院プログラム:革新医療創生CHIBA卓越大学院に加えて、本年4月より科学技術振興機構(JST)の次世代研究者挑戦的研究プログラム:全方位・挑戦的融合イノベーター博士人材養成プロジェクトにより、優秀な博士課程の学生に生活費相当額と研究費の支給をはじめとした支援を行い、学修・研究活動に専念できる環境を整えて参りました。これらのプログラムを通じて、国内外の大学や研究所、製薬企業、大学病院などで新しい医療を創造するリーダー育成のさらなる強化が期待されます。さらに、大学院の秋入学制度や海外協定校とのダブルディグリー/デュアルディグリー制度の拡充により、多様なグローバル人材の育成に力を入れています。

今後も、薬学・医学の未来を担う重要な人材である修士・博士課程学生の育成に努力してまいります。引き続き薬友会会員の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

退任のご挨拶

樋坂 章博



平成26年4月に千葉大学大学院薬学研究院 高齢者薬剤学研究室に上野光一先生の後任として教授に着任してから10年間が経ち、このたび令和6年3月をもって定年退職を迎えることになりました。研究領域をより一般的なものにも広げたいとの思いから、平成27年度より研究室名は臨床薬理学と改称しました。スタッフは山浦克典准教授、佐藤洋美助教の体制でスタートしましたが、山浦先生は平成27年度に慶應義塾大学薬学部に教授としてご栄転されたため、平成28年度からMDアンダーソンがんセンターに留学中だった畠山浩人先生を助教

として迎えました。もともと研究室は原田正敏先生の薬品化学の研究室の流れを汲み、また上野先生は北川 晴雄先生の薬物学研究室、矢野眞吾先生の薬物治療学研究室でもご経験を重ねたもので、上野先生および私 の代を含め、研究室は常に臨床における薬物治療を念頭において活動してきたと言えます。名称は変わって いても、活動は一貫した流れにあったのだと感慨を深くしている次第です。

畠山先生は免疫チェックポイント阻害剤やリポソーム製剤、あるいは温熱療法等の研究実績をあげて昇進を重ね、令和4年からは本研究院の薬物学研究室教授に着任されました。佐藤先生は細胞間コミュニケーションや脳腫瘍等の研究を進めて、令和5年には准教授に昇進されています。私は「我が国のコンピュータによるモデリング研究の拠点となる」との目標を持ち、薬物動態分野の研究としては薬物相互作用の網羅的予測の研究と関連ガイドライン策定等の活動を行ったほか、薬物吸収の予測・モデリングの研究を進めました。また個別化医療を特に重視し、慢性疾患の長期進行を予測する独自のSReFTおよび関連技術を用い、COPD、パーキンソン病、慢性心不全、糖尿病のモデル解析を進めました。臨床試験の被験者情報を利用して、慢性心不全の運動療法の最適化などの研究で、臨床現場で実現できる個別化医療の推進を図りました。博士課程の学生が10年間に15名おり、その中に薬学部教員となったものが3名含まれるなどの実績を嬉しく思います。また佐藤先生のご尽力と病院薬剤部のご協力で、薬剤師卒後研修講座の活動を継続できました。

実は畠山先生、佐藤先生、私の3人はいずれも在任中に大きな手術を経験するなど、すべてが順風満帆ではありませんでしたが、それでも大過なく、とても充実した毎日を送ることができました。長い間お世話になり、本当にありがとうございました。千葉大学薬学部・薬学研究院の教職員・学生の皆様のご活躍と益々のご発展を心より祈念申し上げ、私の挨拶と致します。



薬学部この一年

シルパコーン大学薬学部とのダブルドクトラルデグリープログラム協定更新調印式

大学院薬学研究院長 森部 久仁一

シルパコーン大学(Silpakorn University)は1943年にタイ王国で開学され、現在15以上の学部を擁する国立の総合大学です。ナコーンパトムにキャンパスがある薬学部とは2002年に部局間交流協定を締結し、研究者及び学生の交流を行ってきました。2012年にはダブルドクトラルデグリープログラム協定を締結し、これまでにシルパコーン大学の3名の学生がダブルドクトラルデグリーを取得しています。2023年6月、親交のあるPornsak Sriamornsak教授の学部長就任に伴い、プログラム協定更新の調印式を対面で開催する運びとなり、2023年10月30日、シルパコーン大学にて、Pornsak Sriamornsak教授、森部久仁一教授(大学院薬学研究院長)、小椋康光教授(医学薬学府長)によって協定書に調印しました。現在定期的に行っているインターンシップ学生の受入に加えて、ダブルドクトラルデグリープログラムの学生交流が今後活発になることが期待されます。



協定書を示す 3 名 中央左から、小椋康光教授、森部久仁一教授、Pornsak Sriamornsak教授

「The 5th Joint Symposium on Pharmaceutical Sciences between Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Chiba University and College of Pharmacy, Seoul National University with Faculty of Pharmaceutical Sciences, Chulalongkorn University」を開催して

国際交流・留学生委員会委員長 小椋 康光

2024年1月31日(水)にソウル大学校薬学部と掲題のシンポジウム並びに同校との学術交流協定書の改訂に伴う調印式を開催いたしました。ソウル大学校薬学部とのジョイントシンポジウムは、2010年に締結した同校との協定に基づき開催しており、今回が5回目の開催となりました。前回は2017年2月に実施しておりましたが、COVID-19の影響により、暫く開催が見送られておりました。2023年9月に森部薬学研究院長及び小椋医学薬学府長が同校を訪問し、シンポジウムを千葉大学側がお世話することで再開することを確認いたしました。さらに千葉大学側から、2大学間のジョイントシンポジウムをさらに発展させるため、タイ王国・チュラロンコーン大学薬学部にも参加いただくことを提案し、ソウル大学校側と合意をいたしました。今回のシンポジウムでは、第一部のテーマを「Clinical Pharmacology and Toxicology」、第二部を「Natural Product Chemistry」とし、ソウル大学校から8名、チュラロンコーン大学から2名、本学から8名の講演者が参加し、盛会裡に終えることができました。次回は、2年後にチュラロンコーン大学薬学部のお世話によりバンコクで開催することが決まっております。



同日に行われた調印式の記念写真 (前列着座の左からLee学部長、森部研究院長、小椋学府長)

パジャジャラン大学数理・自然科学部および薬学部との部局間協定および ダブルドクトラルデグリープログラム協定の締結

大学院薬学研究院長 森部 久仁一

パジャジャラン大学(Padjadjaran University)は1957年インドネシアのバンドンに設立され、現在15以上の学部を擁する国立の総合大学です。千葉大学とは2011年に大学間学術交流協定及び学生交流協定を締結しています。医学薬学府(薬学領域)では、パジャジャラン大学薬学部の教員を博士課程の学生として受け入れた交流実績があります。今回、パジャジャラン大学数理・自然科学部および薬学部と部局間協定およびダブルドクトラル

デグリープログラム協定を締結、調印式を対面で開催する運びとなり、2024年2月28日、パジャジャラン大学にて、Iman Rahayu教授(数理・自然科学部長)、Ajeng Diantini教授(英学部長)、森部久仁一教授(大学院薬学研究院長)、小椋康光教授(医学薬学府長)によって協定書に調印しました。今後教員に加えて学生交流が活発になることが期待されます。



数理・自然科学部:協定書を示す 3 名、左から Rahayu教授、森部教授、小椋教授



薬学部:協定書を示す3名、左から、 Diantini教授、森部教授、小椋教授

高雄医学大学との学部間協定の締結

国際交流・留学生委員会委員長 小椋 康光

高雄医学大学(Kaohsiung Medical University)は、1954年に「高雄医学院」として設立され、医学部、歯学部、薬学部、看護学部、保健科学部、生命科学部及び人文社会科学部を擁する私立の医療系総合大学です。高雄医学大学薬学院は、5年制の薬学系(学科に相当)と4年制の香粧品学系で構成されています。また天然物化学、臨床薬学や毒性学の分野で独自の修士課程及び博士課程のプログラムを有しています。本学とは2012年に大学間

協定を結んでおりますが、今般、薬学研究院・薬学部と部局間協定、研究者の交流及び学生の交流に関する協定を締結する運びとなり、2024年1月8日に高雄医学大学にて、黄耀斌教授(高雄医学大学薬学院院長)、森部久仁一教授(本学薬学研究院長)及び小椋康光教授(本学医学薬学府長)によって協定書に調印をいたしました。今回の交流協定をダブルディグリー協定へとさらに発展させるかを含めて、今後一層の連携が深まることが期待されます。



黄 耀斌教授(前列右から 3 人目)、森部久仁一教授(同 4 人目)、 小椋康光教授(同 5 人目)

薬学教育評価機構 評価認定の紹介

薬学教育自己点検委員会委員長 根本 哲宏

令和4年度を評価年度として、薬学教育評価機構による薬学教育第三者評価(第2期)が行われました。薬学教育第三者評価とは、大学側で作成する自己点検・評価書と実際の訪問調査をもとに、大学として定めた人材育成の方針や教育研究上の目的に沿って薬学部薬学科(6年制)の教育が適切に行われているかを、薬学教育評価機構が客観的に評価するものです。具体的には、8項目、19基準、53観点からなる「薬学教育評価 評価基準」に対して千葉大学側が自己点検・評価を行い、本学薬学部薬学科(6年制)の教育プログラムが当該基準に適合しているか否かの判定を、薬学教育評価機構より受けることとなります。平成27年度に受審した第1期の評価と比べて、個々の大学による主体的な自己点検・評価による内部質保証、教育プログラムの実質化に対しての取り組みについて重点的に評価するとの方針もふまえ、評価年度の数年前より体制を構築しつつ準備を進め、令和4年度に1年間かけて自己点検・評価書を作成しました。本評価書の書面調査に基づき、令和5年9月25日、26日にかけて行われた訪問調査を経て、令和6年3月末に適合との評価認定を頂きました。ご協力頂いた先生方、事務職員、学生の皆様に感謝申し上げます。

令和5年度 国公立大学薬学部長(科長・学長)会議 当番校としての対応

大学院薬学研究院長 森部 久仁一

令和5年度は千葉大学が国公立大学薬学部長(科長・学長)会議の当番校として対応しました(前回の当番は17年前の2006年度)。本会議は例年6月と10月の年2回開催です。コロナ禍により令和2年度以降オンライン開催でしたが、今年度は6月2日の第1回、10月6日の第2回、いずれも第一金曜日にKKRホテル東京で開催しました。第1回の前日には国立大学附属病院薬剤部長会議代表者との懇談会が開催され、千葉大学の石井伊都子先生を含む3名の薬剤部長の先生と、薬学部と薬剤部の連携や実務実習の実態について懇談しました。本会議では、財務や事業の協議に加えて、高度先導的薬剤師養成プログラム経費に関する経緯・現状・今後の方向性について議論し、情報共有しました。懇談会・会議後の情報交換会もあり、他大学の先生方と有意義な議論ができました。

この一年での新任教員

原田 真至



令和5年4月より、千葉大学国際高等研究基幹(IAAR)に所属を移し、テニュアトラック准教授を拝命いたしました。それ以前は、薬学研究院の薬品合成化学研究室にて西田篤司先生、荒井秀先生と共に独自の触媒開発とアルカロイド合成に取り組んで参りました。

IAARは、令和3年に策定された千葉大学ビジョンに基づき、"学際的先端研究及び価値を創造するイノベーション研究の拠点"として令和4年度に設置されました。一方で、IAARに所属する研究者は各部局に配属される形となっております。私は、これまでと同様に亥鼻キャンパス

の医薬系総合研究棟II期棟を拠点にしていますが、フロアを4階に移し、有機合成化学実験のできる環境を新たにセットアップしての再スタートを切りました。現在は、分子の骨格構築と同時に官能基化を実現する触媒科学を主たるテーマとし、メンター教授である根本哲宏先生のサポートを受けながら、薬化学研究室の学生と共に日々の研究に励んでおります。薬学の基礎研究を通じて科学の発展と社会への貢献を目指します。引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

橋本 卓也



2023年4月1日付で、分子機能化学研究室の特任教授(国際高等研究基幹所属)を拝命いたしました。

私は2001年3月に京都大学理学部を卒業後、同大学院理学研究院に入学し、丸岡啓二先生のご 指導のもと、2006年3月に学位を取得しました。当時の研究内容は、黎明期にあった有機触媒化 学や、1,3-双極子を利用した触媒的不斉合成法です。その間、スイス連邦工科大Erick Carreira先 生のもとで3か月間、天然物合成研究に携わらせていただく機会もありました。

学位取得後は丸岡先生の下で1年間博士研究員として過ごした後に同研究室で助教に任命され、有機触媒化学のさらなる発展に貢献してまいりました。転機となったのは、2017年10月に千葉大学大学院理学研究院(グローバルプロミネント研究基幹所属)の特任准教授として、千葉ヨウ素資源イノベーションセンターでのラボ運営を任せていただいたことで、有機ヨウ素触媒化学の進展に従事しました。2022年6月(同10月まで千葉大理兼務)からは理化学研究所開拓研究本部の主任研究員に着任し、現在クロスアポイントとして本職をお受けしております。

今後は有機化学を単なる分子合成法としてだけでなく、より科学的・社会的に意義のあるものに昇華させる研究に取り組んで参る所存です。また千葉大と理研の架け橋となる役割を果たすことができれば本望です。浅学の身ではございますが、どうぞ皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

プレスリリースされた薬学部の研究

2023年5月15日 「Methylated Cyclodextrin Effectively Prevents the Crystallization of Supersaturated Drugs」製剤工学研究室 Mengyao Liu, Kenjirou Higashi, Keisuke Ueda, Kunikazu Moribe

2023年9月6日 「Novel Molecular Design for Enhanced Efficacy and Safety in Radiotheranostics (放射性医薬品の有効性と安定性を高めるための新しい分子設計)」 分子画像薬品学研究室 鈴木博元

2023年 9 月19日 「Novel Ligands for Transition-Metal Catalysis of Photoreactions」薬化学研究室 根本哲宏

2023年9月22日 「細胞内で酵素のようにヒストンを修飾する化学触媒の開発 ——疾患における酵素機能の異常に介入する新規治療法の可能性——」 薬品合成化学研究室 山次健三

2023年9月26日 COVID-19重症化因子ORF6タンパク質による凝集体の動態観察に成功

薬品物理化学研究室 西田紀貴、趙慶慈

2023年12月28日 「銀とロジウムの相乗効果で高選択的N-H挿入反応を実現~光学活性な医薬候補分子を簡便

に合成する方法を開発~」薬化学研究室 原田慎吾、根本哲宏

会員便り

永井 咲紀 (第一三共株式会社 安全性対策部)



2013年に薬学部に入学し、2016年から卒業までの3年間、生化学研究室にて伊藤先生、殿城先生、溝口先生にご指導いただきました。研究室ではショウジョウバエを用いて老化による記憶障害のメカニズムを研究しておりました。今振り返ると、研究室生活では論理的思考力や学び続けることの重要性、プレゼンでのストーリー構築の基礎などを学べたと感じており、大変感謝しております。

卒業後は第一三共株式会社に入社し、ファーマコビジランス(PV)業務に携わっています。入社から5年が経とうとしていますが、市販後品や治験品の安全性情報管理に様々な角度から携わることができ、日々学びを感じているところです。治験品のPV業務では臨床開発や開発薬事等の他部署の方々と関わる機会も多く、自分にない視点から

の意見に触れ気付きを得ています。またアメリカやヨーロッパ、アジアなど様々な国の方々と共に働く機会が年々増えており、英語力はもちろんのこと、異なるバックグラウンドを持つ人と円滑にコミュニケーションをとるためにはどうすればよいのか、知恵を絞る毎日です。異文化理解を深めつつ、なるべく具体的かつ明確に伝えることに意識して取り組んでいます。

社内には千葉大学の卒業生も多く、たまに大学時代の話が出ると懐かしく思い出しています。今後も社会情勢や自らを取り巻く環境には様々な変化があることと思いますが、それらを楽しみつつ様々なことに挑戦していければと思います。 (平成31年卒業)

齊藤 惇(大鵬薬品工業株式会社研究本部)



私は修士課程から博士課程までの間、生体機能性分子研究室(現中分子化学研究室)の高山廣光教授の下で天然有機化合物の全合成研究に取り組み、博士号を取得させて頂きました。5年に渡り厳しくも愛のあるご指導を賜りました高山先生並びにスタッフの皆さまには感謝の言葉しかございません。

さて、私は現在製薬企業にて初期ステージの創薬研究に携わらせて頂いております。具体的には、ハイスループットスクリーニングを行う際のスクリーニングカスケードの策定や、得られたヒット化合物の初期構造活性相関の取得など、創薬のシーズを獲得するための研究を行っております。本業務は化学的知識のみならず、バイオロジカルな知識や、生物アッセイ条件への理解も深めなければならず、有機合成だけにドップリ浸かってきた私にとって未知なこ

とだらけで、大変エキサイティングな日々を過ごしております。ただ、私にとって全合成研究も創薬研究も「目の前の問題を解明したい」という研究活動の"根幹"は変わらないため、千葉大学で培った"研究力"と言うものが今も生きていると実感しています。

そんなめまぐるしい日々を過ごしておりますが、現代はAI技術やDX化が急速に進歩するなど、先を予測するのが困難な時代と言われております。時代の荒波に振り落とされないよう、常に新しいことを取り入れながら進んでいくのは容易ではありませんが、楽しみながら乗り越えて行きたいと思っております。 (令和3年博士課程修了)

大瀬 塁(ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社マーケティング本部)



私は遺伝子創薬学講座で小原収先生のご指導を賜り、2011年に博士課程を修了しました。その後、現在も所属しているロシュ・ダイアグノスティックス株式会社へと入社するのですが、もともとはドイツの脳腫瘍の先生のところでポスドクのポジションを頂いていたのです。ところが卒業を控えたD3の10月に教授が他大学へ転籍する事が決まり、私のポジションも白紙に。さあ、どうしたものか、と思って遅ればせながら就活サイトに登録をしたところ、研究室で使っていたロシュのPCRの機械の学術サポートの新卒採用の募集があり「これならできるぞ!」と応募したわけです。一社単願という勇敢な就活に成功したのもつかの間、東日本大震災に見舞われ引っ越し業者もキャンセル。アルバイト先で仲の良かった漁師のおじさんに手伝ってもらって引っ越しをしたのも良い思い出です。そんな私ですが入

社3年目くらいにマーケティング部に異動となり、以来臨床遺伝子検査のマーケティングの道を歩んでいます。コロナ禍の折には日本 にPCR検査をより多く供給するため、本当にもてる全てを使って国内外に説明と交渉を尽くしました。最近はコロナも落ち着いたので、日本の次世代の遺伝子検査の在り方を真剣に考えています。この先もどんな事が起こり、なにをもって社会に貢献していけるのか、チャレンジを楽しんでいきたいと思います (平成23年博士課程修了)

田邉 修一(第一三共株式会社・技術開発マネジメント部)



私は製剤工学研究室にて山本恵司先生、森部久仁一先生、東顕二郎先生からご指導を受け、2010年に修士課程を修了した後、第一三共株式会社に入社しました。入社後の14年間は、2年間のドイツ研究所出向期間を含めて固形剤の処方製法開発を担当し、製剤品質に影響する工程変数や物質特性の特定とその許容範囲設定、そして当局への申請対応等、後期開発の一連の業務を進めてきました。新任当初はデータ整理に追われつつも仕事を全力で楽しむ一方で、出来るだけ少ない回数で高コストの実験を成功させなければならない場面が多く、一発勝負のプレッシャーを感じる日々でした。その頃に抱いた「実験結果や工程を正しく理解し、成功確率を高めたい」との思いからプロセスシステム工学に興味を持ち、2019年にKiel Universityで統計解析、機械学習、シミュレーション技術の製剤開発適用に関す

る内容にて博士号を取得しました。博士号取得後は、同技術を活用した品目開発と専門技術の社内実装、そして人材育成等の研究デジタル変革(DX)を進めていました。人事異動により、この春から研究所を離れ、より広い領域のDX/IT推進を担当することになります。新しい業務においても、好奇心と挑戦する気持ちを忘れずに、今後も精進して参ります。 (平成22年修士課程修了)

中山 典幸 (群馬大学医学部附属病院 薬剤部)



私は2011年に高齢者薬剤学研究室で修士課程を修了し、群馬大学医学部附属病院に薬剤師として入職しました。思い返せば、学生時代は指導して頂いた先生方や先輩後輩にも恵まれ、研究テーマの選定から動物実験やHPLCを使った測定まで、日々充実した研究生活を送っていました。当時は私のように病院薬剤師を目指す学生はマイナーな存在でしたが、他の職種と協力しながら患者さんの薬物療法に直接貢献したいという思いから、病院薬剤師の道を選びました。臨床薬学過程の仲間たちとはお互いに切磋琢磨し合い、充実感あふれる日々を過ごしていたように思います。そして、縁もゆかりもない群馬に足を踏み入れ、気づけば13年も経ちました。大学病院では、調剤注射の基本業務

から、医薬品情報、病棟、栄養サポートチームなど様々な業務に携わってきました。薬物療法の進化と複雑化が続く中で、病院薬剤師に対する需要が年々増していることを実感しています。2017年から6年間は、医療の質・安全管理部で薬剤師ゼネラルリスクマネージャーとして、医療安全や医療の質向上に関わってきました。病院全体を俯瞰的に見て、関連職種や部門全体の最適化を目指すという点にやりがいを感じ、その勢いで、現在は医療の質・安全学講座の博士課程に社会人大学院生として在学中です。仕事、学業、そして家庭の両立は大変ですが、妻や子供たちとの家族の時間も大切にしつつ、今しかできないことに焦点を当てながら、日々を過ごしています。

中橋 かおり(旧姓: 千田) (森永製菓株式会社)



2003年に千葉大学に入学し、遺伝子資源応用研究室で斎藤先生、山崎先生、吉本先生にご指導いただきました。修士課程終了後、食品メーカーに入社して企業研究者として生きていく……はずだったのですが、早々にマーケティング部門に異動となり、その後10年以上マーケターとして奮闘しています。お菓子の味やパッケージデザインを作り、広告コピーを考え、CMに出演し、気づけば薬学からすいぶん遠い場所に来てしまいました。ただ、昨今は機能性表示食品など健康訴求商品の開発が盛んで、薬用植物や生化学、薬機法の知識が活きる場面も多くあります。社内の薬学出身者は片手で数えるほどしかいないため、めずらしさを逆手に取って戦う日々です。

巷には怪しい健康食品が溢れていますが、「薬学を学んだものとして、エビデンスのしっかりした商品を開発するのが使命」と心に誓っています。困難も多いですが、お客様の生活に身近な「食」から健康にアプローチできることにやりがいを感じています。これからも千葉大での学びを最大限に活かし、大好きなお菓子を食べながら(仕事中は食べ放題!)、美味しい商品を作っていきたいと思います。

(平成21年修士課程修了)

伊藤 那月(太陽インキ製造株式会社技術開発センター)

私は学部4年時と修士課程の2年間、薬品合成化学にてご指導いただき、卒業後の現在は材料メーカーにて半導体関連の部材開発に携わっています。研究室では西田篤司先生、荒井秀先生、原田真至先生のもと様々なことを学びました。研究室で学んだ有機合成の知識がドンピシャで役立っているわけではありませんが、研究室で培った問題解決力や研究に関する姿勢など、社会人としての基盤に通ずるものを学ぶことができたため、先生方には大変感謝しております。

会社では研究室の時と違い、会社の製品を作り利益を得ることが目的になってくるため、大学の研究時代とはまた違ったモチベーションを持って仕事に取り組んでいます。今は一つ自分が主になって製品を立ち上げることを目標に頑張っています。

また、同期に同じく薬品合成化学から同じ会社に入った仲間が3人いるため、会社生活もとても楽しく過ごせています。今後とも研究室時代に得た知識や仲間と共に社会人生活を頑張っていきたいです。 (令和3年修士課程修了)

峰岸 志奈(ノバルティスファーマ株式会社開発本部)



私は分子画像薬品学研究室にて荒野先生、上原先生、鈴木先生よりご指導いただき、2019年に修士課程を修了しました。卒業後は中外製薬株式会社の研究所で創薬研究に従事した後、現在はノバルティスファーマ株式会社で薬物動態担当者として新薬の開発業務に従事しております。

分子画像薬品学研究室では、化学合成から細胞実験、放射性核種による標識、動物実験など幅広い実験を経験させていただきました。研究所での創薬研究はもちろん、開発業務においても、研究室で培った経験や知識を活かすことができていると感じています。また、放射性医薬品というある種特殊なモダリティに触れていたことは、転職する際

の一つのきっかけになりました。現在は日本における放射性医薬品の開発業務も担当しており、仕事を通じて、学生時代から携わって いた分野の発展に貢献できることを大変嬉しく思っております。

千葉大学を卒業してから約5年が経とうとしていますが、改めて振り返ってみると、研究室での経験があってこそ現在の環境があることを実感します。これからも、いま取り組んでいることが将来の何かに繋がると信じて、患者さんに画期的な治療法を届けられるように精進したいと思います。 (平成31年修士課程修了)

三浦 寄子(国立研究開発法人国立成育医療研究センター薬剤部)



2011年に薬学部に入学し、学部4年生からの3年間、医療薬学研究室にて石井伊都子教授をはじめとする諸先生方にご指導賜りました。現在は国立成育医療研究センターの薬剤部に勤務しており、小児・妊婦の薬物療法に頭を悩ませる日々です。

研究室時代に行っていたような基礎研究からは離れておりますが、薬学という化学の視点を学んだ薬剤師として臨床の場にいるからこそ、基礎の重要性を身に染みて感じており、基礎研究を理解するための基盤を作っていただいたことに改めて感謝しております。また、小児・妊婦はどうしても情報が少ない領域です。そのような中で、日々生まれる課題を解決するために、今ある情報をどう理解し、どう活かすか。そして、情報をどう創っていくか。その考え

方を学ばせていただいたことが一番の財産だなと思っています。

現在は妊娠と薬情報センターという場所で妊娠中の薬剤使用の情報を扱う業務がメインとなっており、より一層、情報の必要性を痛感しております。昨年度の日本医薬品情報学会学術大会では妊娠と薬のテーマで発表した演題で優秀演題賞をいただき、これはいかにこの領域の情報が求められているかを示すものでもあると思いました。情報を形にして発信することの重要性を感じる機会となったこの学会で石井先生にお声かけいただき、この春から再度先生のもとで学ばせていただきます。このご縁も大切に、今後もより一層精進していきたいと思います。

(平成29年卒業)

西野 将平(PwCコンサルティング合同会社 Health Industries Advisory)



薬効薬理学研究室で2017年に修士課程を修了し、7年の歳月が経ちました。臨床開発モニターとして3年の経験を積んだ後、現在は縁あって主に製薬企業を対象とするコンサルティングに従事しています。また、薬学部の級友でもある妻と結婚し、結婚式の際には中村教授から祝辞を頂戴しました。研究テーマの脂質を絡ませたお話は、私たちのみならず参加者の印象にも深く残り、今でもたまに友人間で話題に上がります。その後授かった娘は今年の6月で3歳になります。研究室でウェスタンブロットの転写を待ちながらお茶室で晩酌していた日々が恋しくなることもありますが、今の仕事と育児に奔走する毎日はとても充実しています。

さて、現在私は学生時代に想像もしなかったキャリアを歩んでいますが、論理を組み立て、聞き手に分かりやすく説明する力は、研究室でご指導いただいた経験が基盤になっており、いつ・どんな時でも役に立つものでした。近年、製薬企業を取り巻く課題は複雑で難解なものになってきていることを実感しており、これに真っ向から取り組むことの苦労は想像以上でした。しかし、千葉大学で先生方や仲間とともに過ごした研究生活を思い出すと、その苦労も乗り越えられるような気がしてきます。今後も先生方・同窓の皆様にはご指導・ご助言いただけると幸いです。 (平成29年修士課程修了)

久保田 翔子(PDRファーマ株式会社)



私は予防薬学(旧:薬品製造学)研究室にて、石川先生、小椋先生並びに鈴木先生のご指導のもと、ケミカルバイオロジー分野における機能性分子創製の研究に携わりました。プロドラッグ設計・化合物合成・バイオアッセイ・設計へのフィードバックといった創薬サイクルを回すことから得た知識や考え方は、現在の私の研究者としての基礎になっていると強く実感しています。誇らしい研究テーマに加え、研究室の先生方や先輩、後輩の皆さまとの出会いに心から感謝しています。

現在は、放射性医薬品の開発・製造・販売を行うPDRファーマ株式会社の研究部に所属し、原薬・製剤の化学、製造及び分析に関わる研究に携わっています。企業における医薬品開発では、医薬品の実用化や商業化を見据えた設計、

医薬品を取り巻く各種規制への適応、試験データの信頼性担保といった観点が重要になります。また、個人や自部門だけで開発課題を クリアすることは難しく、会社や部門を超えた連携によるチームプレーが必要不可欠です。入社当初はこのような企業における医薬品 開発と大学における基礎研究との様々なギャップに驚いたものの、有効かつ安全な医薬品を患者さんへ届けることに対する責任を実感 し、日々の勉強や経験を通じて一企業研究員としてのマインド及びスキル構築に励んでおります。

『変化は成長の源』。私のモットーのひとつであるこの言葉は、上述のような生業に対する姿勢だけでなく、プライベートにおいても同様です。私事にはなりますが、昨年結婚し、人生における大きなターニングポイントを迎えました。今後も仕事や私生活において様々なイベントが待っていることと思います。どんな変化も自分の成長のチャンスとして前向きに捉え挑戦する姿勢を大切にしたいと思います。

(平成28年修士課程修了)

萩原 伸哉(ノボ ノルディスク ファーマ株式会社)



千葉大学の門をたたいてから約9年が経ちました。学部3年生の末から3年間、薬物学研究室に所属し、秋田英万教授(現·東北大学)より丁寧かつ熱心にご指導頂きました。現在は研究からは離れ、医薬品の開発の仕事に携わっています。

話は変わりますが、仕事を進めるうえで、私は常に3つのことを意識しています。それは、『Speak Upをためらわない』・『ファーストペンギンになる』・『パッション!』です。発言・行動の機会を逃さず、常に未知の領域に飛び込む覚悟をもち、熱いパッションをもってすべてに取り組むということです。これらの意識を養えたのは、自身を育ててくれた親によるものと、千葉大学での学びの環境によるものが大きいと思っています。特に、研究室での環境につ

いてお話しすると、薬物学研究室では、秋田先生・田中先生とのディスカッションの機会を豊富に与えていただき、世界初の製剤を開発する研究テーマに全力で取り組ませていただきました。自身の運の良さもありますが、これらの取り組みが目に見える形で成果となった成功体験が、自身の今を形成していると感じています。

最後になりますが、私が学生時代にお世話になった皆さま、現在の仕事は出張も多く、いろいろな場所に行けます。もしどこかでお 会いすることができれば、ランチやディナーなどに行けますと大変うれしいです。引き続きご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

(令和4年卒業)

研究室便り

他の研究室は次号に掲載します

薬品物理化学

薬品物理化学研究室は2022年5月に新たな体制で再スタートし、2023年度末現在、教員2名、研究員1名、博士課程1名、修士課程3名、学部生12名で構成されています。2022年3月にCRESTプロジェクトの支援を受けて600MHzのNMR(Bruker AVANCE NEO)が導入されたおかげで、細胞内環境下におけるタンパク質の構造に関するNMR解析を中心とした研究が加速しております。コロナ禍もひと段落し、学会参加や研究室内の飲み会などもこれまで通り行えるようになってきました。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



薬効薬理学

当研究室は2024年2月時点で、教員3名、博士課程学生3名、修士課程学生11名、学部生15名、補佐員1名で構成されています。2022年10月に宇津美秋助教が着任し、新体制で活動をしています。研究内容は引き続き、セラミドの生理機能解析を基盤として各種疾患の病態解明および新規創薬標的の探索研究を進めています。2023年度の修士論文発表会にて田内理沙子さんが優秀発表賞を受賞し、6月には第148回日本薬理学会関東部会にて修士課程2年の門脇凌君が優秀発表賞を受賞しました。ようやくコロナ渦での行動制限が緩和され、研究室旅行や飲み会などのイベントを再開しました。卒業生の皆様、どうぞお気楽にお立ち寄りください。



分子心血管薬理学

当研究室では、①循環器疾患の病態解明、②がん細胞の増殖性や運動性に関わる新規制御因子の機能解析、③免疫応答の制御機構解明、を主な研究テーマとして進めており、これらの成果に基づいた新たな治療薬の開発を目指しています。高齢化や生活習慣の欧米化により、わが国の心不全・がん・免疫疾患の患者数が増加しています。これまでたくさんの治療薬が開発され使われてきましたが、治療に反応せず改善がみられない患者はまだ多くいます。病気の進行を止めるような有効な治療薬を開発して社会に貢献したいと考えています。医学部の疾患システム医学研究室や循環器内科学研究室のメンバーとも交流を深め共同研究を進めています。



生化学

令和5年度は海外や国内学会の現地開催が戻って来て、学会参加の醍醐味を改めて感じました。小型魚類研究会で、加納君が優秀口演賞を受賞しました。コロナ禍で中断していた研究室旅行も再開し、横須賀の猿島でBBQや磯遊びを楽しみました。令和6年度は、教員3名、研究員1名、大学院生15名(博士課程5名、修士課程10名)、新4年生7名を含む学部生12名、技術補佐員3名の大所帯で、細胞内のシグナル伝達、個体の老化・代謝・行動メカニズム解明、病態モデルの作製など幅広い研究テーマに意欲的に取り組みます。



薬物学

2022年4月より畠山が教授に着任し新体制となりました。田中浩揮助教は2023年4月より東北大学に異動となり、為本雄太助教が着任しました。前任の秋田先生と同様にDDS研究を継続し、また免疫チェックポイント阻害剤など様々な新たな治療モダリティに関し薬剤学、薬物動態学領域において臨床的課題の解決に資する基礎研究を進めています。令和5年度は博士課程6名、修士課程4名、学部学生16名、スタッフ合わせ28名で研究に取り組んでいます。薬物学研究室は1954年の設立から70年を迎えました。OB/OGの皆様、引き続き温かいご支援をお願いするとともに、ぜひお気軽にお立ち寄りください。



免疫微生物学

免疫微生物学研究室は、昨年9月に助教の安保先生がジョージア州立大学へ再留学され、現在は教員2名(川島博人教授、中司寛子准教授)体制で、博士課程学生4名、研究生1名、修士課程学生5名、学部学生11名と共に、糖鎖生物学・免疫学・微生物学に関する分野横断的研究を展開しています。特に、抗糖鎖抗体の開発に基づいて展開する創薬研究に力を入れており、我々の研究成果が将来実臨床へ応用されることを夢見て、日々研究に励んでいます。昨年度は、PHシンポジウムを主催するとともに、台湾で開催された国際学会(Glyco26)や幕張で開催された日本免疫学会などに参加し、アフターコロナの活気ある学会で刺激を受けました。



予防薬学

今年度の予防薬学研究室は、教員3名、技術補佐員1名、博士課程学生2名、修士課程学生6名、学部学生13名で研究活動を行っています。准教授として当研究室を支えてくれました鈴木紀行先生が、今年度より東邦大学薬学部教授としてご栄転されました。鈴木先生の新天地でのご活躍を

研究室メンバー一同、心より祈念いたします。

予防薬学研究室は"成功は次の成功を産む"をモットーに活動しています。実験に失敗はつきものですが、失敗を失敗のままにせず、小さな成功に変えていこうという努力を惜しまず、小さな成功を大きな成功に繋げることを目指しています。

今年度は予防薬学研究室発足10年目にあたります。卒業 生・お世話になった方々におかれましては、折に触れて研 究室にお立ち寄りいただけますと幸いです。



分子画像薬品学

当研究室では現在、教員3名、博士課程2名、修士課程5名、学部学生16名、秘書1名の総勢27名で、開発した放射性薬剤を臨床応用まで進めることを目標に日々研究活動に励んでおります。令和4、5年の研究室のトピックスをご紹介します。令和4年4月より甘中健登助教が着任され、令和5年9月には鈴木弘行助教が退職されました。令和4年度にインドネシアのパジャジャラン大学から2名の留学生を受け入れました。令和5年度は二国間交流事業を利用して鈴木博元助教が1ヶ月間フランスのナント大学で、ナント大学の博士研究員が当研究室で研究を行いました。来年度以降も引き続き国際共同研究を進めていく予定です。



感染制御学

令和5年4月から医薬系総合研究棟II 4階では活性構造化学研究室から改名し、感染制御学研究室として新たにスタートしました。石橋正己先生、原康雅先生が大事に残してくださった天然物ライブラリーと細菌感染症学を融合させて、将来につながる感染症治療薬のシードをみつけようと、研究室一同、切磋琢磨して研究活動に励んでいます。

令和5年度は、薬科学科4年生3名、薬学科6年生1名と修士課程2名の学生が卒業・終了します。令和6年4月からは、准教授の高屋と薬科学科4年生2名、薬学科5年生1名、修士課程4名、博士課程1名で頑張ります。温かいご支援のほど何卒よろしくお願いいたします。



社会薬学

本研究室は現在、教員2名、事務補佐員1名、大学院生5名、6年生6名、5年生6名、4年生6名、3年生2名の28名が在籍しています。当研究室は、臨床の課題を扱うため、様々な医療機関と連携をもちながら進めており、学外の方々などから多くの刺激を受けつつ、日々研鑽に励



貼付剤の引きはがし粘着力試験

実務薬学

実務薬学研究室は、令和6年4月時点で教員3名、博士課程1名、修士課程1名、学部6年生4名、5年生3名、4年生3名の計15名が在籍しています。令和5年4月に永島一輝助教と内海尊雄助教が新たに着任し、新メンバーで再スタートしました。現在は、口腔機能と服薬の関係に関する研究、とろみ剤の服薬時の活用に関する研究、過量服薬(オーバードーズ)や自殺対策に関する研究、点眼薬のアドヒアランス向上に関する研究などを行なっています。今後も研究や教育活動を通じて、臨床現場で役立つエビデンスを構築し薬剤師等に対して提供すること、将来の先導的な役割を担う人材を育成することを目指します。

医薬品情報学

医薬品情報学研究室には、特任教授の神崎哲人、特任准教授の鈴木聡子、特任助教の石田大祐、廣瀬慎一の教員4名と学部学生6名、事務補佐員1名が所属しています。

本研究室では、生活習慣病・動脈硬化症の臨床研究、医療関連サービスの充実に資するデータベースの構築などを目的として①精神疾患患者の生活習慣病及び治療(多剤併用)の実態に関する研究、②薬局における患者フォローアップの実態に関する研究、③抗悪性腫瘍薬の副作用用語の自然言語処理に関する研究などに取り組んでいます。

また、(株) マツキヨココカラ&カンパニーの寄附講座 である特徴を生かし、産学連携で臨床的研究を進めていま すので、どうぞ気軽にお立ち寄りください。



2024年1月16日現在

分子機能化学

分子機能化学研究室(橋本卓也特任教授)は、2023年4月に新たに発足した研究室です。実際のラボは、本務先となる理化学研究所開拓研究本部のある埼玉県和光市理化学研究所和光キャンパス物質科学研究棟に設置されております。理研のラボも2022年に発足したばかりで、新たな分子の合成とその新しさからくる機能の創出に取り組んでいます。

2024年4月からは修士課程1年生1名と博士後期課程1年生1名が加わり(理研の研修生としての身分を持つことで)、本格始動する予定です。理研和光キャンパスは千葉大亥鼻キャンパスからは公共交通機関で2時間少しと距離がありますが、興味のある方は近くにお越しの際はぜひともお立ち寄りください。



クラス通信

昭和32年卒業

昭和32年卒の私たちは、毎年3月2日に同期会=「千葉薬32会」を開いて友好のときをもってきました。残念ながら、ここ数年はコロナ禍の影響で会はもたれていません。

また、国松季彦君らもの書きが好きな仲間の発案で、クラス仲間がそれぞれ好きなものを書いて、文集を作ろうということになりました。こうして生まれた文集が、「CHAOS」です。CHAOSは混沌という意味で、名付け親も国松君だったと思います。学生時代に第1号の「CHAOS」が発行されて、卒後も数年おきに刊行を重ねて2011年の第7号まで作ることができました。なお執筆者は千葉薬32年卒のものに加えて、医学系へ進学したクラスメートも含めて、総数46名です。

年を重ねるにつれて、「千葉薬32会」が記憶に蘇ってきます。 (辻 和之)

昭和34年卒業

今年4月、卒後65年を迎えた。「あっという間」と迄は言わないが、かなり短かった65年と感じたのは私一人ではなかろう。現在チャットメンバー14人、伊藤義人(以下敬称略)、岩﨑吉宏、神田昌一、木下恒、齋藤友伸、関根克己、武田豊彦、津田穣、中嶋啓介、長尾美奈子、西井戸惇子、野村幸一、宮崎桂次、山川雅延に加えて、安部知代、伊澤弘子、紅林繁、武川宏の4人、計18人の生存を確認している。卒業時の半数を割っているのは残念なことである。

このクラス通信をご覧いただき、「私、生きています」 という方が居ましたら是非ご連絡いただきたい。

Zoomを使っての「34チャット」は、毎月1回開催、足掛け4年も続いている。メンバーが5人以下になったら解散することになっているが、あと何年続けられるだろうか? (中嶋 啓介)

昭和35年卒業(珊瑚会)

コロナ感染等不安も多い中でしたが塩野谷博君の企画立 案で令和5年度クラス会(珊瑚会)を10月12日(木)新宿 ライオン会館にて開催。

塩野谷幹事のリードで学生時代、更に過去のクラス会の思い出、各人の現況報告等 本当に楽しい時を過ごした。遠路岡崎から参加して頂いた山岳リーダーの正畠さん 懐かしい山登りの思い出を語って頂きました。

次回R6年度クラス会、内容等よく検討して開催させて 頂きたいと思います。

先生方の熱心なご指導のもと一緒に過ごした大学4年間、 学業と併せて懐かしい思い出がいっぱい。これは「珊瑚会」 にとって貴重な財産、大切に保存・活用して参りましょう。

(幹事:秦 初博)



昭和36年卒業(三六会)

長いコロナ禍で集会が出来なかったが、やっと下火となり、恒例のランチクラス会を5月下旬に開催した。場所は 御茶ノ水のガーデンパレスのつきじうえむら。

集まったのは11人。遠くは長野県上田、広島県福山からも。近況、思い出などで盛り上がり、あっという間の半日だった。命の洗濯だ。幾らか寿命も延びたかも。

一方では悲しい出来事もある。この年、4人のメンバーが亡くなった。我々85,6才は結構な年令だが、それでもなぜ早く逝くの、という思いはある。その人たちに「も一度私は会いたいな。」という気持。年末には会えない人の消息も知りたいと、原稿を集め会報を発行した。

(村上 泰興)

昭和37年卒業

昭和37年卒同窓会は足かけ三年にも及んだ新型コロナウイルスの影響により終焉を迎えたと前年のクラス通信でつたえました。

しかし、その後政府が同感染症をインフルエンザと同等の「5類感染症」に移行させたことにより、同ウイルスに対する警戒感がうすれ、各自の活動の自粛が緩んできたように思われます。

変化し続けるウイルスは脅威ではあるものの、同窓の皆 と相見えようとする萌しが見えてきたのです。

そこで、今年の春に、動ける者だけでもあつまり、再び 絆をとりもどす機会を作ろうと幹事さんが準備にとりか かったところです。 (清水 征生)

昭和39年卒業

卒業時は36名でしたが現在連絡できる方は26名になりました。我々のクラス会は2017, 2018年に開催されましたが、コロナ禍のためこの数年間は開催できずにまいりました。

それでも2021,2022年にはzoomクラス会を開催しました。本年5月以降そろそろ顔を合わせる機会を設けてもよろしいのではと、10月銀座にて対面クラス会を開催しました。11名が参加の予定でしたが1名の方が体調を崩されたため10名となりました。まず、今夏の酷暑を無事乗り越えたことを祝し乾杯、そしてプチ贅沢なランチを楽しむことができました。

皆さん、張りのある口跡にて近況を披露され、すこぶる 健康体とお見受けした次第です。 最後に朝ドラ「らんまん」にちなみ萩庭先生の思い出をお話できましたことは幹 事の役得でした。

次回クラス会が対面かzoomかはともかく再会を約束して散会しました。 (久保 陽徳)



昭和41年卒業(66会)

66会(1966年卒)の皆様へ

皆々さま、お元気でお過ごしですか?

思いもよらぬ新型コロナ渦により66会の延期に続く延期、幹事役の苛立ちもわかるような、やっと幹事さんのご尽力で開催(新宿のイタリアンレストラン)に漕ぎ着けることが出来ました。一堂に会したのは常連さんと遠路上京して呉れた大石、横井のお二方、休会中の鬱憤を晴らすかのように賑やかな会食の場と化しました。美味に舌打ち乍らの近況報告と学部時代の思い出話に花が咲きました。ご一同は傘寿を迎え、そろそろ会も終焉と思っておられた方もあるやと…、『人はそれぞれの人生の『残日計』を持っている』とか、66会は年一度のイベントですので、あなたの人生スケジュール表『残日計』に来たる66会開催日の○を付されるよう願います。

(今回の集合写真、手違いで掲載できなくご容赦下さいね) (**深草 佑一**)

昭和42年卒業

我がクラスはこの文が届く頃には約半数が八十の大台となる。

終活ではないが昔を思い出してみる。

教養課程1年次は【稲毛】2年次は【西千葉】専門課程3年次から4年次の前半は【猪鼻地区のボロもとい郷愁の校舎】4年次後半は【西千葉の新校舎】という【流浪の民】であった。

当時の思い出は教養課程時の【崇高な理念の? 講義】は夢・幻の如く消え去り、今も鮮明に残っているのは、寒さに震えオーバ着て講義を受ける、ふと窓を見る。窓際の机には隙間雪が積もっている、夏は暖房冬は冷房の【自然と共(友)に生きる】生活をしていたのだなぁ。

1964 (S39) 年 6 月授業が長引き遅めの昼飯を学食でとっていた時大きな揺れ、ご存じ【鞍馬天狗】ではなく【新潟大地震】ビックリしたなぁ。その年10月東京五輪。とある授業時何人かが欠席。どうも見学に行ったらしい。愛国者だのう。誰だったかは語らず。

専門課程時1966 (S41) 年 6 月下宿から猪鼻のボロ (郷愁) 校舎に行く途中、何台もの救急車とすれ違う。

そう千葉大(医学部)三大事件の【千葉大チフス事件】 なんても大学病院近くの八百屋さんで購入したバナナに チフス菌を注射して発病させたとか。

なんとその八百屋さん下宿生活中の大谷・齊藤がよく利 用した八百屋さんじゃないですか。

そうかそうか大谷君が家庭菜園に熱心なのは「良く知らない八百屋から野菜を買うのは危険」と言う【トラウマ】の根源だったのか? 【滝澤農園もそうなのか まさかね】

まだまだ終活なんてと言う方もいらっしゃいますが、皆様ご自愛を。 (齊藤 弘)

昭和51年卒業

去る11月30日、コロナ禍のために延期になっていた同期会をようやく開催することができました。通常でしたら、2年ごとの開催はたやすいことですが、今回は本当に未曽有の出来事でした。

前回が2018年でしたから、5年ぶり、また平日午後の会とあって参加人数も気になりましたが、20人が久しぶりに顔を合わせ、和気あいあいの時間を過ごしました。

同期会会場は築地の老舗そば処を選びましたので、おそばはもちろん、お料理もとてもおいしく、落ち着いた雰囲気でもあり、次回も同じところという声を頂いて、早くも1年後の再会が決まりました。また、同期の中にはお仕事で現役の方も多いので、次回は週末で企画する予定です。

(山地 由紀子、市川 裕一郎)



昭和53年卒業

薬学部(西千葉キャンパス)に入学後、約半世紀が経過し、数多くの同窓生が定年退職を迎える節目を記して数年前から計画していた74Pクラス会がCOVID-19の5類移行後、実施可能になりました。そこで令和5年9月16日(土)の午後に上野の森において二学科合同で開催しました。高齢の親族らに対する老老介護や自らの健康上の問題などの理由から欠席される方がおられる中、出席者は34名でした。会は昔の面影を辿りながらの微妙な雰囲気でスタートしたものの、すぐに懐かしい思い出ばなしや近況報告などで盛

り上がり、とても和やかな時間を過ごしました。

最後に、これからも継続してクラス会を開催し、同窓生メンバーとの再会を楽しみにしながら過ごしていくことを誓い合い、散会しました。 (高島 美登利、齋藤 直樹)



昭和59年卒業

59年卒業生同窓会を12月2日に新宿三井クラブで、4年ぶりの同窓会を開催しました。 久しぶりに会う人もいて、「一瞬誰だっけ」みたいなところもありましたが、すぐにうちとけて昔の話や近況報告などに花が咲きました。楽しかった学生時代の様々な出来事、飲み会や下宿でのいろいろな逸話。介護・孫の世話・定年を迎え、次の人生をどうするか、などなど。第二の人生を考える上で大切な時間でありました。短い時間でしたが、非常に楽しいひと時を過ごすことができました。

(幹事 安孫子、高木(旧姓坂上)、齋藤)



平成25年(薬学科)卒業

早いもので3度目の年男を私は昨年迎えました、今年や 来年迎える方も多いのではないでしょうか。

6年制から製薬研究職を目指して就職活動を始め、ご縁があって資生堂に入って10年となりました。学生時代はかゆみの研究、会社に入ってからはヘア製品の開発をしていましたが、不思議なもので現在は原点回帰でかゆみにも関わる敏感肌のスキンケア開発に携わっています。

さて、昨年は勤続10年でお休みをいただけたので亥鼻 キャンパスに訪れました。突然の訪問にも関わらず、助教

の石川くんと本田くんが忙しい中時間を作ってくれて、会うことができました。そこで、同窓会をしようという話になったので、この会誌が発行される頃には行われているかもしれません。まだの時は是非このクラス通信を見て出席を検討してくださいね。



(土居 亮介)

平成31年卒業

皆様いかがお過ごしでしょうか。本年度をもって、私を 含め後期三年博士課程に進学したメンバーは修了を予定し ています。亥鼻キャンパス前の通りや千葉駅周辺などは立 て続けに改築が行われて、私たちが入学した2015年とは大 きく様変わりし、時の流れを感じます。

先日、同窓会が開かれて久しぶりに多くの方にお会いしました。やはり同期というのは気を遣わずに過ごせる唯一の存在ですね。皆様を通じて、昔の自分を思い出す貴重な機会となりました。幹事の方々はご準備ありがとうございました。

これからの数年で、私たちはまた新たなライフステージへ進むことでしょう。皆様のご活躍の知らせを楽しみにしながら、私自身も精進してまいります。 (神 売太)

令和2年卒業

令和2年は新型コロナウイルスが日本に上陸した年で、 感染に細心の注意を払いながら国家試験を受験しました。 その後の卒業式や懇親会も中止となり、友人と会うことも できなくなりました。日常が大きく変わっていくなかで、 学友と情報交換することもないまま卒業し、社会に出てか らもコロナ禍という誰も先が見えない状況の中で、地道に 進んできました。そのような日々でも、希望を絶やさずに 社会で根を張り、会社になくてはならない人に成長するこ とができました。

疎遠になってしまった大学時代の学友とも、少しずつ連絡を取り合い、切磋琢磨しています。コロナ禍を経た今、人と繋がることの大切さを実感しています。

いつも先生方や先輩方には応援いただき感謝が尽きません。私たちの姿を通して勇気と希望を少しでも与えられたらと思います。 (石井 貴浩)

令和5年卒業

私は千葉大学薬学部を卒業後、京都大学で大学院に通っています。学部では免疫学の分野を研究していたこともあり、現在は医科学を専攻してCAR-T療法など細胞治療の研究を行っています。生まれ育った関東から初めて関西への移住ということでこの1年は気候に振り回されたように感じています。朝夜の寒暖差が大きく体調管理に苦労しましたが、やはり京都は歴史が深くただの散歩にさえ趣を感じられます。

早いもので京都に来てから1年が経とうとしています。 4月には仰々しく迎えてくれた桜も今年はいくらか身近な存在のように思えます。私の大学生活はコロナ禍であまり外出はできませんでしたが、4月になると千葉の桜の美しさを思い出します。亥鼻キャンパスの桜並木を思い出しながら、今後も研究に励んでいく所存です。

(鈴木 太朗)

支部 便り

東京支部便り

東京支部・千葉支部・神奈川支部による三支部合同総会が2023年11月10日18時30分から20時30分まで、日本橋茅場町の鉄鋼会館8階(宴会:鉄鋼会館ニューオータニ)で開催されました。昭和35年卒から平成2年卒の16名が参加しました。残念ながら発熱や病気入院や

業務多忙により当日欠席の方が7名おりました。森部 久仁一薬友会会長(薬学部長)から「千葉大学および 薬学部の現状」についてお話を伺い、大学や薬学部や 薬友会の現状について情報提供いただきました。続い て東京支部の会計報告と次期役員の承認を得たあと懇 談会に入りました。4年ぶりの合同総会であったため か各人話が盛り上がり、会場を追い出されるように閉 会となりました。2024年も「鉄鋼会館」で合同総会を 開催する予定です。 (東京支部長 末永 昌文)

サークル紹介

薬学テニス部

私たち薬学テニス部は週に1~2回西千葉キャンパスのテニスコートを使って活動しています。ここ数年は新型コロナウイルスの影響で練習やイベントの開催が制限されてしまいましたが、感染予防を徹底したうえでの練習を通して学生同士のつながりを作っていくことができました。また、昨年度は制限の緩和に伴い、ここ数年開催できていなかった合宿やイベントを開催することができました。今年度も少しずつ活動を盛り上げていき、貴重な大学生活という時間の中で活動を楽しみながら学部内のつながりをつくっていけるような団体にしていきたいです。

薬学茶道部

金曜日の17時から19時に薬学部Ⅱ期棟中会議室にて活動しています。表千家の先生をお招きして、お点前のお稽古をしています。少人数で、和やかな雰囲気の部活です。大学から茶道を始めた初心者がほとんどですが、先生の優しく丁寧なご指導により、楽しく学ぶことができます。部員が交代で買ってくるお菓子や先生が持ってきてくださる季節のお花が毎回の楽しみとなっています。

昨年度は4年ぶりに亥鼻祭でのお茶会を開催できました。参加した部員にとっては初めてのお茶会となり、不安も大きかったですが、多くのお客様にご来席いただきました。今年度も亥鼻祭に向けてお稽古に励んで参りますので、お時間がございましたら、是非お立ち寄りください。

薬学バスケットボールサークル

薬学バスケットボールサークルは、令和元年に設立された比較的新しい団体です。研究室に配属された学部生や大学院生を中心に、週一回、亥鼻キャンパスの体育館で主にゲーム形式の練習をしております。午後の早い時間に活動しているため、昼休憩の時間や実験の合間など、忙しい研究生活の中で、手の空いた時間に気軽に参加して、リフレッシュできる場となっています。また、経験の有無にかかわらず、誰もが楽しめる活動を心がけており、経験者が積極的に初心者に対えることで、バスケットボールの楽しさを伝えています。まだ人数は少ないので、より多くの学年や研究室を超えた交流が生まれる団体になれるように、メンバーを増やしていきたいです。

薬学野球部

薬学野球部は新型コロナウイルス感染拡大の影響を 大きく受け、部活動として全く活動できていない状態 が長く続いていました。新歓活動も行えていない期間 が長く、部員数は減少の一途をたどっていましたが、 令和5年度は部員の各々が他に入っている部活、サー クルや研究室で声をかけ、部員を増やすことができま した。令和6年度は体験会を含めた新歓の再開、四大 戦などの試合の開催、試合に向けた練習などを行い、 コロナ禍以前の活気ある姿を取り戻したいと考えてい ます。

学部だより

教員の人事異動 (R5.4.2~ R6.4.1)

◎採用者

R 5.10.1 為本 雄太 薬物学 助教 (本学特任助教より)

R6.4.1 楽満 憲太 中分子化学 助教(成蹊大学 助教より)

R 6.4.1 井並 頌 特任助教 (PD) ※日本学術振興会特別研究員

R 6.4.1 田村 真生 特任助教 (PD) ※日本学術振興会特別研究員

◎定年退職

R 6.3.31 樋坂 章博 臨床薬理学 教授

◎辞職

R5.8.31 安保 博仁 免疫微生物学 助教 (ジョージア州立大学へ)

R 5.9.30 鈴木 弘行 分子画像薬品学 助教

R 6.3.31 鈴木 紀行 予防薬学 准教授(東邦大学薬学部 教授へ)

◎契約期間満了退職

R 6.3.31 MEGHA 国際高等研究基幹 特任助教

◎昇任

R 5.10.1 佐藤 洋美 臨床薬理学 准教授(臨床薬理学 講師より)

◎配置換

R6.4.1 永澤 明佳 法中毒学 講師 (大学院医学研究院 助教より)

◎出向

R 6.4.1 本田 拓也 薬効薬理学 助教(文科省へ)

第109回 薬剤師国家試験合格状況

令和6年2月17,18日

新卒者合格率 90.00% (受験者 40名、合格者 36名)

既卒(4年制課程)及び科目等履修生合格率 85.71%(受験者 7名、合格者 6名)

2023年度 卒業生・修了生の進路

学部 4 年生 43名

進 学:千葉大学大学院医学薬学府修士課程

企 業:日本航空㈱ その他:千葉県庁

学部6年生 41名

企 業:第一三共(株)、アストラゼネカ(株)、アイン薬局、アイングループ、日本化薬(株)、沢井製薬(株)、

日本調剤㈱、㈱アインホールディングス、㈱千葉薬品、第一三共ヘルスケア㈱、㈱杏林堂薬局、

IQVIA サービシーズジャパン(株)、興和(株)、コニカミノルタ(株)、武田薬品工業(株)

病 院:千葉大学医学部附属病院、東京都立病院機構、総合病院土浦協同病院、

国立国際医療研究センター病院、国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院

公務員:東京都庁、信州大学医学部附属病院薬剤部

そ の 他:独立行政法人医薬品医療機器総合機構、静岡県立静岡がんセンター

修士課程 42名

進 学:千葉大学大学院医学薬学府博士課程

企 業:イーピーエス(株)、住友化学(株)、MeijiSeikaファルマ、シミック(株)、(株)ツムラ、クミアイ化学工業、

住友ファーマ(株)、日本ベーリンガーインゲルハイム、森永製菓(株)、中外製薬(株)、アストラゼネカ(株)、

興和㈱、小野薬品工業㈱、JT医薬総合研究所、第一三共㈱、㈱ADEKA、

IQVIAジャパングループ

その他:独立行政法人医薬品医療機器総合機構

博士課程 20名

企 業:中外製薬㈱、塩野義製薬㈱、武田薬品工業㈱、日本ベーリンガーインゲルハイム㈱、住友化学㈱、

武田薬品工業㈱、㈱中外製薬、大塚製薬

その他:国立医薬品食品衛生研究所、日本たばこ産業 医薬総合研究所、千葉大学医学部附属病院

2024年度 薬学部入学者の状況

入学者数93名(男43名、女50名:推薦10名、前期74名、後期9名)

出身高校一覧

札幌南(北海道)、北広島(北海道)、仙台第一(宮城)、仙台青陵(宮城)、磐城(福島)、四ツ葉学園(群馬)、宇都宮東(栃木)、常総学院(茨城)、水城(茨城)、市立浦和(埼玉)、浦和第一女子(埼玉)、川越女子(埼玉)、県立浦和(埼玉)、熊谷(埼玉)、越谷北(埼玉)、昌平(埼玉)、大宮(埼玉)、浦和西(埼玉)、開智(埼玉)、市川(千葉)、東邦大学付属東邦(千葉)、成田(千葉)、千葉敬愛(千葉)、昭和学院秀英(千葉)、専修大学松戸(千葉)、千葉東(千葉)、県立船橋(千葉)、船橋東(千葉)、佐倉(千葉)、設谷教育学園幕張(千葉)、市立千葉(千葉)、薬園台(千葉)、長生(千葉)、敬愛学園(千葉)、東葛飾(千葉)、お茶の水女子大学附属(東京)、駒澤大学高等学校(東京)、東洋(東京)、白鴎(東京)、青山(東京)、駒込(東京)、九段(東京)、立川(東京)、外松川(東京)、小山台(東京)、國學院(東京)、普連土学園(東京)、安田学園(東京)、日比谷(東京)、巣鴨(東京)、国分寺(東京)、芝浦工業大学附属(東京)、中央大学高校(東京)、海城(東京)、三鷹(東京)、淑徳(東京)、湘南(神奈川)、小田原(神奈川)、横浜市立南(神奈川)、厚木(神奈川)、横浜隼人(神奈川)、県立相模原(神奈川)、山手学院(神奈川)、鎌倉女学院(神奈川)、屋代(長野)、甲府南(山梨)、沼津東(静岡)、至学館(愛知)、西春(愛知)、片山学園(富山)、武生(福井)、岐阜北(岐阜)、山口(山口)、長崎東(長崎)(掲載について承諾を頂いた方の出身校名のみ掲載しております。)

2024年度 大学院医学薬学府入学者の状況(4月入学者)

修士(薬学領域)入学 49名:総合薬品科学専攻49名

博士(薬学領域)入学 18名:先端医学薬学専攻(4年制) 8名

先端創薬科学専攻(3年制) 10名

2023 年 の 受 賞 記 録

【教員の受賞】

【秋泉公文员】				
令和5年2月	山次	健三	薬品合成	Lectureship Award MBLA 2022 (MSD生命科学財団)
令和5年3月	中島	誠也	薬化学	奨励賞 (日本薬学会)
令和5年3月	青木	重樹	生物薬剤学	日本薬学会奨励賞
令和5年4月	青木	重樹	生物薬剤学	JAICI賞
令和5年6月	小椋	康光	予防薬学	日本毒性学会 学会賞
令和5年6月	高屋	明子	感染制御学	薬学研究院長表彰
令和5年6月	田中	佑樹	予防薬学	薬学研究院長表彰
令和5年9月	山崎	真巳	遺伝子資源応用	学術賞(日本植物バイオテクノロジー学会)
令和5年9月	吉本	尚子	遺伝子資源応用	令和5年度日本生薬学会論文賞(日本生薬学会)
令和5年9月	杉山	龍介	遺伝子資源応用	奨励賞(第64回天然物有機化合物討論会)
令和5年9月	田中	佑樹	予防薬学	日本分析化学会 奨励賞
令和5年9月	田中	佑樹	予防薬学	日本微量元素学会 奨励賞
令和5年9月	畠山	浩人	薬物学	日本薬物動態学会奨励賞
令和 5 年10月	杉山	龍介	遺伝子資源応用	2023年度千葉大学先進学術賞
令和5年12月	原田	慎吾	薬化学	Asian Core Program Lectureship Award (Singapore)

【学生の受賞】

令和5年3月	伊藤	翼	薬化学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	Í
令和5年3月	矢澤	智弘	薬化学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	Í
令和5年3月	岩瀬真喜子		予防薬学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	Í
令和5年3月	高田	翔平	予防薬学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	Í
令和5年3月	鷹田	歩佳	予防薬学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	Í
令和5年3月	晝間	大樹	中分子化学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	Í
令和5年3月	徳本	大成	製剤工学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	Í
令和5年3月	坂本	尚輝	生物薬剤学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	Í
令和5年3月	山口	隼平	感染制御学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	Í
令和5年3月	浅沼	朋花	感染制御学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	Í
令和5年3月	藤井	一樹	感染制御学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	Í
令和5年3月	馬目	照久	感染制御学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	Í
令和5年3月	神	亮太	臨床薬理学	日本薬学会第143年会 優秀発表賞	ĺ

雄太 令和5年3月 爲本 臨床薬理学 日本薬学会第143年会 優秀発表賞 令和5年3月 爲本 雄太 臨床薬理学 優秀賞(千葉大学全方位イノベーション創発博士人材養成プロジェクト) 貝塚 祐太 分子画像薬品学 令和 4 年度革新医療創生CHIBA卓越大学院優秀学生賞 令和5年4月 令和5年5月 石原奈々花 薬品合成 優秀発表賞 (第84回有機合成化学協会関東支部シンポジウム) 優秀発表賞 (第84回有機合成化学協会関東支部シンポジウム) 令和5年5月 書間 大樹 中分子化学 佐久間文絵 第38年会最優秀発表賞(日本薬剤学会) 令和5年5月 製剤工学 風岡 優秀ポスター賞 (第30回HAB研究機構学術年会) 令和5年5月 顯良 生物薬剤学 令和5年6月 門脇 凌 薬効薬理学 第148回日本薬理学会関東部会 優秀発表賞 孝文 令和5年6月 中澤 医療薬学 日本医療薬学会 Postdoctoral Award受賞(日本医療薬学会) 令和5年7月 伊藤 薬化学 第122回有機合成シンポジウム優秀ポスター賞 令和5年7月 大石かなえ 免疫微生物学 優秀発表賞(第23回Pharmaco-Hematologyシンポジウム) 長谷川紗名 プラズマ分光分析研究会 ポスター賞 令和5年7月 予防薬学 令和5年7月 嶋﨑 駿将 予防薬学 プラズマ分光分析研究会 優秀発表賞 高田 翔平 令和5年7月 予防薬学 The 10th International Congress of Asian Society of Toxicology Judges' Award 分子画像薬品学 田中 頌子 短寿命RI利用研究シンポジウム 優秀ポスター賞 令和5年8月 令和5年9月 神田 治樹 薬化学 第67回日本薬学会関東支部大会 優秀発表賞 令和5年9月 冨田 啓輔 薬化学 第67回日本薬学会関東支部大会 優秀発表賞 令和5年9月 松本ゆきの 薬化学 第67回日本薬学会関東支部大会 優秀発表賞 令和5年9月 佐久間文絵 製剤工学 第48年会製剤・創剤セミナー Best Poster Presentation Award (日本薬剤学会) 令和5年9月 藤本 泰輝 製剤工学 第67回日本薬学会関東支部会優秀発表賞(日本薬学会) 令和5年9月 加納 永梧 生化学 Best Presentation Award (第29回小型魚類研究会) 令和5年9月 貝塚 祐太 分子画像薬品学 第6回日本核医学会分科会放射性薬品科学研究会/ 第22回放射性医薬品・画像診断薬研究会 優秀発表賞 令和5年9月 飯嶋紗耶乃 予防薬学 フォーラム2023 衛生薬学・環境トキシコロジー 新人賞 翔平 メタルバイオサイエンス研究会 閔賞 令和5年10月 高田 予防薬学 藤田 敦哉 板垣宏学生奨励賞(日本動物実験代替法学会第36回大会) 令和 5 年11月 生物薬剤学 若手ポスター賞 第62回NMR討論会 令和5年11月 小林 航 薬品物理化学 令和5年12月 平井 智也 生物薬剤学 若手優秀発表賞(第6回医薬品毒性機序研究会)

成績優秀賞・論文優秀発表者賞

学長表彰

酒川 優泉(薬科学科4年生)

学部長表彰

角南 彩乃(薬学科6年生) 酒川 優泉(薬科学科4年生)

薬学科卒業論文発表会 優秀発表賞

奥田 桜佳 吉野紗也香 仲村 美咲 平田 一真

学長表彰 (成績優秀賞)

坂元寿輝弥(博士課程) 佐久間文絵(修士課程)

学長表彰 (学術研究学生表彰)

山崎 敬太(修士課程)

学府長表彰 (成績優秀賞)

坂元寿輝弥 (博士課程) 佐久間文絵 (修士課程)

修士論文発表会 優秀発表賞

姜 敏睿牧 愛優美松宮 論史山本 麻由



学長表彰、学部長表彰、卒業論文優秀賞発表



修士論文発表会優秀発表者

薬友会より

ご寄付いただいた皆様

令和5年度にも皆様からのご支援を薬友会と薬学部(千葉大学基金)に賜りました。皆様のご協力に 心から感謝申し上げます。ここに、寄付をいただいた方々のお名前を掲載させていただきます。 (五十音順、敬称略)

薬友会への支援

恵美 伸男 石井 靖男 許 奎璋 草間 和子 久野美和子 近藤 隆子 辰野 美紀 田村 隼也 中村富美子 星 田邊 義雄 仲川 明子 勝治 安田ひさ子 横山 浩二 吉木 康雄 余田 佳子 渡辺 吉郎

薬学部(千葉大学基金)への支援

今泉 絢子 今野 勉 田島 健一 野中 一 野中 寿一 (お名前の公表を希望されていない方につきましては、掲載しておりません。) 今後も、皆様方の温かいご支援を何卒よろしくお願いいたします。

<ご寄付のお願い>

薬友会のさらなる活性化のため、ご寄付をお願い申し上げます。

一口2千円から随時受け付けています。同封の振込用紙に、①氏名、②住所、③卒業年度をご記入ください。

■郵便局より振込の場合

振替口座 00150-5-551796 千葉大学薬友会

■他金融機関より振込の場合

銀 行 名: ゆうちょ銀行 **店 名**: ○一九 (ゼロイチキュウ店) **店 番**: 019

預金種目:当座 **口座番号**:0551796 **口座 名**:千葉大学薬友会

※千葉大学薬学部へのご寄付は、千葉大学基金から受け付けています。

個人からのご寄付については、寄付金が2,000円を超える場合、税制上の優遇措置が受けられます。インターネットから申し込む際には、「寄付目的」の項目で「個別プロジェクトへの支援」を、「支援先」の項目で「薬学部」を選択していただくことで、ご寄付が可能となります。千葉大学基金からの寄付に関する詳細は、「千葉大学基金」で検索してご確認いただけます。また、薬学部の寄附ページに直接アクセスできるQRコードは以下に掲載しております。

ご不明な点は、TEL: 043-290-2014、Email: kikin@office.chiba-u.jp にお問い合わせ下さい。特に銀行振込をご希望の場合、お問い合わせいただいた後に送付される銀行振込用紙をご利用いただき、指定の口座へお振込みください。

<訃報>

千葉大学名誉教授 渡辺 和夫先生 (88歳) におかれましては、令和5年8月29日 (火) にご逝去されました。 千葉大学名誉教授 廣瀬 聖雄先生 (93歳) におかれましては、令和5年11月10日 (金) にご逝去されました。 心よりご冥福をお祈りいたします。

<薬友会ホームページ>

薬友会ホームページ(https://yakuyukai.net)には、同窓会開催のお知らせや薬友会情報などを掲載しております。情報掲載のご希望は、下記の薬友会事務局までご連絡ください。

ホームページから会員情報変更が可能です。https://oursl.net/yakuyukai(下記QRコード)にアクセスして頂くか、または薬友会ホームページの「住所変更」から、下記のIDおよびパスワードを入力してお入りください。 従来通り、同封のハガキおよびE-メールによるご連絡も可能です。

 $ID: \bullet \bullet \bullet \bullet \bullet \bullet \bullet \bullet$

パスワード:●●●●●

薬友会事務局連絡先 【Eメール】yakuyukai@chiba-u.jp

[F A X] 043-226-2930



変更連絡フォーム

<令和6年度各種委員会名簿>

(○印:委員長。前委員長はアドバイザーとして参画。)

総務委員会 〇小椋 康光、福本 泰典、田中 佑樹、村上 泰興 (S36)、伊藤 晃成 (前委員長:アドバイザー)

財務委員会 〇石川 勇人、北島 満里子、村上 泰興 (S36)、高野 博之 (前委員長:アドバイザー)

名簿委員会 ○佐藤 信範、櫻田 大也、村上 泰興 (S36)、山崎 真巳 (前委員長:アドバイザー)

事業委員会 ○川島 博人、中司 寛子、上原 知也(前委員長:アドバイザー)

広報委員会 ○伊藤 素行、殿城 亜矢子、溝口 貴正、根本 哲宏(前委員長:アドバイザー)

第32回千葉大学大学院薬学研究院 薬友会生涯教育セミナー・宮木高明記念講演会のお知らせ

日 時:2024年7月6日(土) 14:00~17:00

場 所: 千葉大学薬学部120周年記念講堂(医薬系総合研究棟Ⅱ 1階)

(〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1)

(※)対面開催を予定

主催:千葉大学大学院薬学研究院・千葉大学薬友会

テ ー マ: 「免疫学の新潮流 |

生涯教育セミナー

1)「他家免疫細胞を用いたがん免疫療法の開発」

本橋 新一郎 先生(千葉大学大学院医学研究院教授)

2)「脳梗塞後の修復メカニズム」

七田 崇 先生(東京医科歯科大学 難治疾患研究所 教授)

3)「炎症性腸疾患の病態解明を目指した炎症収束スペクトラムの理解」

三上 洋平 先生(慶應義塾大学医学部准教授)

宮木高明記念講演会

「がん、脳疾患、老化に挑む免疫研究の最前線」

吉村 昭彦 先生(東京理科大学生命医科学研究所 教授、慶應義塾大学医学部 名誉教授)

セミナー参加費 無料

参加申し込み 不要です。当日お越し下さい。

お問い合わせ先 薬学研究院 免疫微生物学研究室 川島 博人

(電話:043-226-2926 email:h-kawashima@chiba-u.jp)

卒後教育研究講座開催のお知らせ

本講座は薬剤師の生涯教育を目的とする勉強会です。また、在学生を含めてどなたでも参加できます。千葉大学大学院薬学研究院・薬友会・医学部附属病院薬剤部・千葉県病院薬剤師会が共催します。令和6年度はウェブ形式で1回、開催予定です。

詳細は決定次第、千葉大学薬友会ホームページhttps://yakuyukai.net/archives/category/newsでアナウンスさせていただきます。

編集後記

薬友会報の編集を無事に終えることができ、お力添えを頂いた方々に感謝申し上げます。コロナ禍がようやく終息を見せ、4、5年ぶりの日常に戻りつつあります。講義や学会もほぼ対面で行われるようになり、キャンパスからもマスク姿がだいぶ減ってきて、解放感が広がる春を迎えています。一方で、オンラインでの会議にもすっかり慣れ、キャンパス間を移動することなく容易にコミュニケーションをとれる便利さも享受していますが、やはりリアルな会話や笑顔に勝るものはありません。コロナ禍で亥鼻キャンパスからしばらく足が遠のいている薬友会員の方もいらっしゃるかと思います。この機会にぜひ、千葉大学薬学部にお立ち寄りください。

広報委員会 会報担当部門 伊藤素行(委員長)、殿城亜矢子、溝口貴正、根本哲弘(前委員長)